

第3学年 道德科学習指導案

第3学年4組 27名
指導者 葉田 佳奈

1 主題名 きまりを生むもの

C－(11) 規則の尊重	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。
-----------------	----------------------------

2 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

法やきまりは、個人や集団が安全にかつ安心して生活できるようにするためにある。よりよい人間関係を形成する上で、自分の思いのままに行動するのではなく、集団や社会のために自分が何をすれば良いのか考え、進んで約束やきまりを守って行動する態度を養う必要がある。きまりを守ることによって、相手だけでなく自分も周りの人の気持ちも心地よいものになる。そこで、一般的な約束や社会のきまりの意義やよさについて理解し、一人一人が相手や周りの人の立場に立ち、集団の向上のために約束やきまりを守ろうとする実践意欲を育てたいと思い、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、仲が良く友達を大切に、楽しく学校生活を送っている。休み時間の様子をみると「横投げはだめだよ。」「先に掃除道具出しておこう。」など友達同士で決めたきまりを声を掛け合って守ろうとしている。3年生になり低学年の頃と比べると、総合的な学習の時間で校外へ出たり、放課後友達の家や公園に遊びに行ったりと、行動範囲が広がっている。今後は、見学先での過ごし方、公園での遊び方など社会のきまりにふれる機会も増え、大人の目が届きにくい中でも、一人一人がきまりを守ろうとする意識が大切になってくる。本時では、公共の場でのきまりの意識を高め、全ての人が気持ちよく過ごすためにきまりがあることを理解し、きまりを守ろうとする実践意欲を育てたい。

(3) 教材について

(教材名「心の優先席」)

出典：小学 道德 豊かな心 光文書院
混雑した電車で腰の曲がったおばあさんが乗ってきたことで、乗客はそわそわしはじめる。誰がおばあさんに席を譲るべきなのか話し合う3人の意見から、きまりの意義やきまりを守ることのよさについて考えることのできる教材である。

3人の意見について話し合うことにより、優先席があると、おばあさんが安心して電車に乗ることができること、乗客の迷いを行動につなげることができることに気付かせたい。また、優先席といったきまりは、人々の優しさからできたものであるかもしれないといったように様々な視点からきまりのよさを考え、ねらいとする価値に迫りたい。

(4) 主体的に考え、伝え合い、響き合うための工夫

電車内の様子を押さえた上で乗客のそわそわした気持ちを問う。そうすることにより、乗客の気持ちに共感できるようにし、自分事として考えられるようにする。タブレット上に記号で自分の考えを示すことで、自分の思いや考えを明確にもたせるようにする。グループ活動を取り入れることにより、小集団の中で自分の考えを表出し、意見を伝え合い、より多様な考えに触れられるようにする。その際、教師が問い返しをすることにより、多面的・多角的に捉え、多様な考えの中から自分の意見を再構築できるようにする。導入で児童から表出されたきまりの例に対して、展開後半でその意義を再度問うことにより、教材と自分の生活を関連させ、自己の生き方について考えられるようにする。